

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

こぶし

第 130 号

発行責任者：横井 正人
発行：機関紙局
特定非営利活動法人 民族歌舞団 こぶし座 北海道函館市陣川町 122-172
TEL/FAX: 0 1 3 8 - 5 4 - 2 8 5 9 年 2 回 発行
E-mail:kobusiza@wing.ocn.ne.jp http://www18.ocn.ne.jp/~kobusiza/

主な内容

- (1) 第 11 回通常総会開かれる
- (2) 旭川市内での取り組みから
- (3) お手紙紹介
- (4) 後援会総会開かれる



【第11回通常総会】
-こぶし座会館-

旭川市内での取り組みを
報告する中尾理事



芸能を通して地域の絆を!!

— 第十一回通常総会開かれる —

四月二十九日・こぶし座会館にて

季節外れの雪で枯れかけていたこぶしの花が、息を吹き返して真っ白い花を咲かせた穏やかな日よりのなか、「第十一回通常総会」が行われました。

理事会より社員総数二十名出席十七名であることが確認され開会となりました。

はじめに、横井理事長から「昨年は、日本文化代表団の一員として参加したロシア公演や研修生の誕生（残念ながら実らず）などに刺激と励ましを得て活動を展開。経済不況の荒波のなか、制作に公演

力強い挨拶がありました。

* * *

第一号議案「二〇〇八年度事業活動報告」では、芸能の調査研究・作品の創造などは最小限にとどまり、制作に重点を置いた活動のなか、公演及び講座は百二十四回（一九九、六〇六人）開催し、数々の事業を実施したことが報告

されました。

これを受け制作部の中尾から、芸能を通して地域の絆を強め、世の中の閉塞感を打ち破って行こうと呼びかけ、旭川市内三方所で公演が実現し大成功を収めた喜びと、これからの制作活動を示唆する取り組みが語られました。

* * *

第二号議案「二〇〇八年度収支決算報告」では、昨年同様、公演収入が目撃まで届かず厳しい現状ではあったが、三十回の一般公演の内、十箇所道や自治体からの助成金を取得するなどの成果もあつた事。後援会からの支援金や公演車募金などに支えられ、活動を展開してきたことが報告されました。

続いて監事の金城氏より「監査報告」があり、「地域経済が疲弊し悪化している情勢のなか、目標には至らなかつたものの昨年並みの公演収入を維持できたのは大きなこと。道民を元氣付ける、活き活きとした舞台を届けながら展望を切り開いてほしい。」と話され、承認されました。

* * *

第三号議案「二〇〇九年度事業活動計画」では、伝統芸能の調査研究・作品創造・公

演活動などの計画が提案されました。

これを受けて、全座制作の先頭に立ち奮闘している横井から発言があり、

・ 函館でのある新年交礼会に参加し、食の安心と農業・地域の繋がりを語る講演に感動し、長沼町に住むその方を訪ね座の公演の趣旨を語り協力を得られたこと。

・ 若いころ活動を共にした後援会員をたよりにむかわ町を訪ね、文化協会や教育委員会など一喜一憂しながら町中を走り廻り、最後に会った漁師さんに励まされ、その優しさで浜への深い愛情に胸が熱くなったこと。

・ 学校公演でお世話になった厚真町の教育委員会の担当者の方を訪ね、その後の子ども達の変化や座の近況などを交流し合い美味しいお酒を酌み交わした事等々。

新しい出会いと感動が語られました。

* * *

第四号議案「二〇〇九年度収支予算」では、全座の力を結集して公演収入の目標を達成させ、座員の生活保障の改善をはかり、昨年出来なかつた会館の修繕に着手することが確認されました。借入金返済計画については、来年に大

きな峰を迎えるので、今年度から対策をとり、座の実情を伝えながら乗り越えて行こうと話されました。

以上、全議案が承認され審議を終了しました。

* * *

最後に理事長から「厳しい現実が変わりませんが、こぶし座を待っている人たちは、北海道じゅうに沢山います。芸能を通して心を通わせ、安心して暮らせる地域社会を創って行きたいものです。

今年こそ公演目標を達成させ、社員みなさんの力で新しい活動を展開して行きましよう。」と力強い挨拶がありました。

【今年度の一般公演】 (決定分)

5月	28日	旭川市春光
	29日	同、東旭川
6月	25日	豊浦町
7月	16日	川越市①
	17日	川越市②
	19日	東京都新宿
10月	14日	更別村
11月	21日	厚真町

地域に暮らす人々のなかへ

旭川市内での取り組みから

旭川での地域公演

初めての札止めも…

制作部 中尾雄児

道内各地を転々と走り回るのはなく、一方所にじっくりと腰を据えてこぶし座らしい制作活動を創り出してみたいと、札幌市での経験を生かし旭川市内での地域公演を試みました。

昨年11月、金融危機のニュースが流れ閉塞感が強まるなか不安を胸に活動開始。重立った方々に美瑛町公演を観に来て貰いました。

公演のあと、雨紛中学校の記念事業に来てほしいと中川さんからの吉報。嬉しかったです。

一度は諦めかけていた西神楽に再度入り直し、「私たちの住んでいる地元で観られるのなら」と60代の元教師の女性が代表に。同世代の女性や息子世代の友人たちを巻き込んで二転三転の末、女性パワ―で公演が実現。

春光台は、西神楽の方から紹介を受けた二人の女性との出会いから始まりました。「こぶし座を観る会」が動



満席となった西神楽公民館

出会い

事務局・土井久代
高野克子

き始めると、前売り券が予想以上に広がり、両会場とも満員御礼の札止めとなりました。公演当日は、座布団を持ったお客さんも多く、席をやりくりして全員が席に着けた時はほっとしました。

3公演で入場者は700人を超え、どの会場も満席の喜びに溢れ、心が通い合う暖かな雰囲気の中公演となりました。

実行委員一人ひとりの頑張りのお陰で、地域に根ざしたこぶし座らしい公演ができて感謝しています。更に5月末にも旭川地域2カ所での公演が行われる事になりました。

春光台ははじめてと言うこぶし座の中尾さんから話を聞く、この出会いが発端でした。

「地域を元気にしたい」「人とつながりを深くしたい」熱く語るこぶし座の中尾さんの思いに引き込まれ私たちの願いと重なっていき公演を決意します。

実行委員をお願いし春光台を巡る二人三脚の活動が始まりました。実行委員にとお願いすると「快く引き受けて下さり、そこから又新しい人が生まれ輪がどんどん広がっていききました。

この人にと実行委員長をお願いすると「いいですよ、春光台が好きだから」と。会が歩き出すと「市民委員の後援を得よう、回覧板で春光台中にこぶし座を宣伝しよう」実行委員の発案で実現します。

また商店会の協力を得ることが出来、あちこちの商店、郵便局、医院などでポスターを目にするようになります。この事は私たちが勇気づけ、改めて「春光台が好きだから」と言った実行委員長のことをかみしめていました。

会がめざしたのは、一人一人が多くの人出会い、こぶし座を語り券を持つ人を広げることでした。最初はなかなか数がかめなかつたのですが、「年老いた母に観せたい」、「春光台で観れるの」と喜ぶおとしより。「太鼓の会」「日本舞踊の会」など増えていきました。そしてとうとう一週間前には打ち止めに、予想もしないことでした。

そして当日、たくさんの方の波があとからあとから続きました。会場へと消えていきまふび出す程の大盛況でした。それは見終わった人の笑顔、「よかったよ!」「こんな楽しいもの呼んでくれてありがとう」「またよんでね」の言葉からも感じられました。

改めて伝統芸能・こぶし座の力を感じました。今まで何気なく暮らしていた春光台、公演を通してたくさんの人と出会い、励まされ、支えられてきました。今、「春光台が好き」と言えそうです。

そして「民族歌舞団こぶし座」との出会いは、私たちにとって大きな財産となりました。ありがとうございます。



春光台の観る会の皆さんと

主催者代表のご挨拶
(当日パンフレットより)

ご来場の皆様、本日はお忙しいなかを「民族歌舞団こぶし座」の公演にご来場下さいまして誠に有難うございました。

春光台の「観る会」を代表いたしました。心よりお礼を申し上げます。

私は春光台に住んで35年位になりましたが、皆様はいかがでしょうか。

戦後は多くの人々が移り住むようになり、緑の環境も豊かで、小学校・中学校・高校なども設立され、人口は一万二千人を超える街になりました。

私は春光台の前には旭川市内の中心部に住んでおりましたが、自転車です春光台に来て山ぶどうを探した思い出があります。そして子どもの頃には、お祭りの思い出があり、笛や太鼓や歌や踊りの賑やかさに誘われて、家族で過ごし

たことが思い出されます。

今回、春光台に「こぶし座」が来てくださいましたことは、春光台にも、お祭りとおふろさとが来てくださったような嬉しい気分になります。公演の取り組みは二人の女性の呼びかけで始まりましたが、実行委員や賛同してくださった皆様のお陰で、お祭りとおふろさとをつれてこられたような、とても嬉しい思いです。

戦前の軍隊の戦争準備の演習地であった春光台に、今は私たちが住み、そして「こぶし座」が来てくださって、私たちの平和な「ふるさと」の象徴となりますように、公演を楽しんでいただきたいと存じます。

ご覧の皆様温かいご声援と大きな拍手で会場を盛り上げてくださり、お楽しみ下さいますようお願い申し上げます。春光台こぶし座を観る会 代表 太田邦男



他地域から来た高校生も…
(春光台地区センター)



大きな立て看板に、ジ〜ン…。

「こぶし座」に
感謝を込めて
旭川市郷土芸能
雨紛囃子保存会
事務局長・中川明雄

3月15日、雨紛中学校周辺は何時になく人の出入りが激しく、カラフルなぼりに釣られるように、夕刻には家族連れや友人同士・老若男女が今まで見たこともないくらいの大勢が集まりだし、いよいよ「こぶし座公演」の始まり。折しもそれは、雨紛中学校閉校式典を一週間後に控えた特別企画でした。雨紛中学校は六十年の歴史を持ち、最盛期には生徒数200人を超える時代もあったものの、平成20年度は10名。今後も増える見込みがなく、地域全体で熟慮の結果、生徒への教育環境の観点から苦渋の決断を下したのである。

常に地域の中心に位置し、地域に住む総ての人や同窓生にたくさんの思い出を作ってくれた学校に、感謝と何時までも語り継がれるようにとの願いを込めて協賛会を設立。地域と同窓生のご芳志により、閉校式典及び記念誌発行。同時に記念事業として、たまたま当地の『雨紛囃子保存会』とご縁があった民族歌舞団「こぶし座」に無理を承知で公演をお願いすることとなりました。

身勝手な日程にもかかわらず快諾をいただき実現の運びとなったのですが、思えば時代の変化とともに忘れていた、懐かしさに似た空気が私たちの地域に漂った一日でした。会場一杯のお客が見守る中、歓迎披露として当地の郷土芸能『雨紛囃子保存会』も連『つまり中学生が祭囃子を奏で、舞手が縁起のよい餅まきの舞「福の種まき」を披露。そして、いよいよ洗練された本物の芸「こぶし座」が感動と喜びを会場の隅々まで与えてくれたのです。



餅まきの舞『福の種まき』
(演奏は雨紛中学校の生徒たち)

私たちは、かねてより郷土芸能を小学校の授業に組み込み「雨紛つ子ばやし」として、学芸会やお祭り披露。中学生になると『こども連』として保存会の内部組織扱いとなり、各行事で活躍しています。この主たる目的は、なんの特徴もない地域に生まれ育ちながらも、地域を愛しそこを故郷と心から思える、そのために地域の一員であることが身をもって感じられるよう、そして祭囃子が誇りであり人生の自信や活力となっていくことを願っています。この度の「こぶし座」公演は、中学校閉校のマイナスを払拭する役目を充分果たしてくれました。これで子ども達は、胸を張って統合先へ通学出来ると確信しますし、地域の住民も気持ちを切り替えることができたと思います。ありがたい、そして今後も変わらず世界中に癒しと感動を与え続けてください。更なるご活躍を祈ります。

昨年度の最後を締めくくる公演は、札幌市清田区で行われた地域公演でした。応援団の中心として奮闘して下さいます。芳原さんからの熱いお手紙を紹介致します。

「こぶし座の皆さん、
今晩は。」
清田区公演 応援団
芳原美奈子

今頃は、陣川町の本部に着し、「ホツと、ひと息！」と言う頃でしょうか？

この度の、清田区公演。本当にご苦労さまでした。文化的な行事とは、縁の薄いと思われるこの地域に入っていただき、本当に感謝しております。ありがたいございました。開幕前の舞台作りの頃は、「もしかして、半分くらいの入りでは？こぶし座の皆さんに気の毒だなー！ごめんなさい！」と思いつつ…。(実は辛かった！)ところが、次々次々：お客さんが！ヤツター！一軒一軒、声をかけたこ



受付は、芳原さんの教え子たち。

とが実ったのだ！スーパーに行く時にも、体育館や地区の会館に身体を動かすに行く時にも、いつもいつも携帯したチラシとチケット。そして、「こぶし座の回し者です！」「観て絶対に損はない！」「1500円で観られる内容では無くないんだから！」とけい宣活動。大好きなこぶし座さんの為に、ほんのチョビツと、お役に立てたのでしょうか？何の力も権力も無い私。有るのは、ただ「こぶし座大好き！」ということだけ。でも、私をそこまで、突き動かした「こぶし座さん」に、参った！それは、日頃の、厳しい厳しい修練・修練・修練！それに耐える精神力・精神力・精神力！しっかりと、思想的にも学習を積み重ね、時に厳しく・時にやさしく！皆で支え合う同土愛。私、発寒(札幌事務所)に凶々しく伺いして感じました！歌舞団の事務所ではなく、普通の家族の家！だと。特に台所がとて綺麗とお見受けしました。それは、あのキビキビとした演技の元。身体作りの元。食を大事にされているんだなーと。(中略)



お世話になりました。…合掌

札幌市中央区でも…!! 『跡地利用を考える会』の主催で、大光寺本堂を会場に取り組みまれ、とても素敵な雰囲気の中で楽しい公演を行うことができました。

清田地区公演、本当にご苦労さまでした。

また、大好きなこぶし座の皆さんにお会いできる日を楽しみにしております。(こぶし座応援ツアーなんてバスが出たらの嬉しいですね。) 皆さん、くれぐれも、お身体ご自愛下さいね。

第二十回
こぶし座後援会総会
開かれる

5月10日、こぶし座会館において「2009年度後援会総会」が、25名の参加で開かれました。

議長には岡部幸人さん(運営委員)が選ばれ、三浦恒雄会長の「限界集落が増え閉塞感の強まる北海道のなかで、こぶし座の公演を取り組んでくれる所があるのかどうか心配していましたが、元気な地域はあったんですね。『みんな、泣いたり笑ったりしながら、頑張りたい!』と応援してくれたようです。まさに地域の反撃が始まった一年でした。後援会としても、ロシア壮行公演を大成功させ、こぶし座も文化代表団の一員として大きな役割を果たしてくれました。今年も会員を増やし後援会を大きくして、こぶし座を応援していきましょう。」との挨拶から始まりました。

座の横井正人理事長からは、こぶしTheまつりやロシア壮行公演など昨年の物心両面にわたる支援に対するお礼と、座活動の報告がなされました。公演の取り組みや出会った

方々の様子を次から次へと時間を忘れるほどの勢いで語る横井に、議長の岡部さんも只々啞然!!

「残念なことに研修生の佐藤愛さんが3月で研修を終え故郷へ戻ったことや、学校公演の減少など、厳しい現実があります。今年も、皆さんの協力も得ながら一般公演50回の目標に向かって行きま

す。」と長くも熱く力強い挨拶となりました。

続いて活動のまとめ・決算報告の議事にはいりました。最後に、事務局から方針とは別に、値上げも含めた会費のあり方を来年度の総会に向け検討したいとの提案があり、「値上げではなく会員を増やす事の方が大事では?」「今の厳しい経済情勢の中では、新しい方針が必要かも...」などの意見交換がなされました。



挨拶する三浦会長

【今年度の方針】

1. 後援会員を増やす。
2. 公演車購入募金：三カ年計画最後の年、運動を引き続き進める。
3. 交流ほか

- ・ 応援バザー(音鑑にて) 8月30日
- ・ 秋のレクリエーション 10月4日

「横井理事長の話聞いて、力を発揮したいと思った。」

「年に一度、総会で座の活動報告を聞く事で力を貰っている。」などの感想もあり、応援してくれる暖かい気持ち

が伝わって来る総会でした。こぶし座にとっても、様々な職場に勤める会員の方々の生の声を聞ける貴重な場になっています。

少しづつ、少しづつ会員同士のふれあいや、座と後援会の結びつきが深くなって来ているのを感じとても嬉しく、今年も楽しい活動を一緒に創って行きたいと思えます。

また、総会後の恒例「お花見交流」には、この秋に挙式を予定している、座員・中尾雄児の愛娘のアキちゃん

と彼氏が顔を出し、もうひとつ華を添えてくれました。

(横井ひとみ・記)

第二十七回
地方歌舞団交流会

全国の仲間たちとの熱き四日間!

4月17日〜20日の日程で、埼玉県美里町にある荒馬座の民族芸能センターで、第27回地方歌舞団交流会が開かれ、競演会と各団体の活動報告や合同稽古などが行われました。

交流の中心は大競演会。

会場の美里町遺跡の森館は満員の観客で埋め尽くされ、ほうねん座(宮城県)・田楽座(長野県)・荒馬座(東京都)・若駒(大阪府)・こぶし座(北海道)の5団体による

公演は、二時間半に及ぶ熱気溢れるものとなりました。

全国各地で四十数年の活動を続ける歌舞団の演目は、その歴史と地域の特徴が色濃く反映されていて、地元

に生きる人々の息吹が伝わってくるようでした。

また、それぞれの集団を構成している演技者一人ひとりの葛藤や喜びが一つになった瞬間でもあり、沢山の勇気と刺激が交差した舞台は、確かな連帯感を生み出したようです。

観客の皆さんの暖かな声援に、只々感謝です。

ともに稽古を重ね、舞台を創り、飲んで食べて語り合い、

苦勞して開墾したこの土地にずっと居たいだけ。」と自然体で生きてきた川瀬さん。

「心のこもった弔辞を聞きながら、生前の姿が目に見え、目頭が熱くなった。

送る会の最後には、実行委員長が「今日の送る会は、川瀬さんの想いを送り出す会と考えます。残された私たちがその想いを受け継ぎ伝えて行きますように。」と締めくくりました。

私も貰って生きよう...

別れたい想いを胸に、次の公演準備に向け、矢白別



泣き、笑い、そして励まし合った四日間!

かけがえのない仲間への愛情を深め、明日への活力を生み出す交流会となりました。

《矢白別平和盆踊り》

道東の別海町・浜中町・厚岸町の3町にまたがり、南北10キロ・東西28キロに広がる日本最大の陸上自衛隊演習場「矢白別演習場」の真ん中で、1965年から毎年行われている盆踊り大会のこと。

矢白別演習場では、155ミリ自走式榴弾砲の実弾射撃訓練などが年間300日以上も実施され、1997年からは、在沖繩米海兵隊による実弾演習も行われるようになってい

ます。もともと、矢白別演習場は元国策の開拓地で、入植12年目の1964年に84戸から買収した農地です。

「私はここにいたい」と買収を拒否した川瀬記二さんら2戸の農家を励まそうと始まったのが、「矢白別平和盆踊り」です。